

概要版

たさえあいプラシ

第6次松戸市地域福祉活動計画 (2023～2027年度)

 社会福祉法人 松戸市社会福祉協議会

令和5年3月策定

地域福祉活動計画とは

松戸市地域福祉活動計画は、松戸市社会福祉協議会（以下、「市社協」という。）と地域住民や諸団体が、今後どのように地域福祉を推進していくのかの指針となるものです。市社協では平成8年（1996年）度に第1次計画を策定し、その後、5年ごとに活動計画の見直し及び計画の策定を行っています。

第5次計画においては、17の会場における住民アンケートや中学生・高校生からの意見を取りまとめて計画を策定、さらに年度ごとに市社協事業の評価及び取り組み状況を確認しました。第6次となる本計画ではコロナ禍のため郵送やSNSを活用して住民アンケートを実施し、また、各取り組みにおける関連事業の方向性を明示し「社会福祉協議会事業の紹介」を加え、市社協の役割を明確にしました。

本計画は、年々複雑化・深刻化している地域生活課題に対し、行政だけに解決を委ねるのではなく、住民や諸団体が連携・協働し、地域における支え合い・助け合い活動をとおして「住民ができることは住民で行う」という地域づくりを目指しています。

市社協と地区社協

市社協は昭和27年10月に設立し、昭和43年3月29日に法人認可されました。平成12年の社会福祉法の改正により、社会福祉協議会は「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」として位置づけられ、大きな役割を担うようになりました。

地区社会福祉協議会（以下、「地区社協」という。）は、第1次計画に基づき、地域福祉の向上を目的として平成8年12月から平成19年5月までに、市内15の地区に設立されました。「自分たちの福祉課題は、まず自分たち自身で取り組む」という住民意識を出発点とし、会食会や高齢者・子育て世帯の交流の場（サロン）・災害対策・軽スポーツ大会の開催、多世代交流の場「ふれあい広場」の開催、広報紙の発行など、誰もが住みよい福祉のまちづくりを推進するため、地区社協ごとに特色のある活動を展開しています。



市社協と地区社協の役割

市社協は、地区社協と連携・協働しながらさまざまな地域福祉活動を展開していますが、市社協と地区社協との関係については、「自立性を有する内部組織」として位置づけ、地区社協活動の充実強化を支援します。

市社協は地域福祉活動の推進・調整役として、地域住民に対しさまざまな事業や活動に参加するための援助などを行う中心的な役割を果たしています。

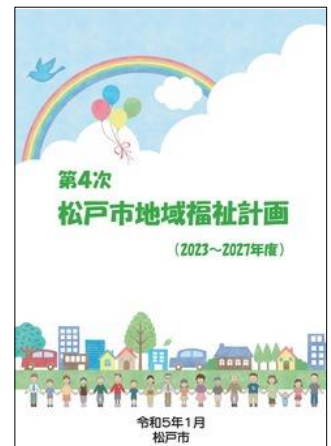
松戸市地域福祉計画において、市内15の地区社協は地域福祉を推進するという重要な役割をもつ「地域福祉推進地区」と位置づけられています。

「第4次松戸市地域福祉計画」(行政計画)との連動

第4次松戸市地域福祉計画は市民と行政の協働により「みんなで築く福祉のまち～地域共生社会の実現を目指して～」を基本理念として地域福祉の推進と体制づくりの指針を示した行政計画です。

市社協が策定した「第6次松戸市地域福祉活動計画」は、行政計画の基本理念のもと、「私たちのめざすまち」の実現に向けた行動計画の性質を有しています。

両計画の連動・連携により、松戸市と市社協が一体となり、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくことのできるまちづくりをめざします。



SDGsとの理念の共有

平成27年9月に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals)」は、「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指し、世界共通の17の目標を示しています。これらの目標は、政府による取り組みだけでは達成が困難であり、地域社会や一人ひとりに至る、すべての人に行動が求められており、こうしたSDGsの理念は本計画にも共通しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

私たちは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



※持続可能な開発目標 (SDGs)

(出典 : JAPAN SDGs Action Platform-外務省ホームページ)

第6次計画の体系図

第6次松戸市地域福祉活動計画は、第5次計画に引き続き、基本理念を『みんなで築く福祉のまち』に定めるとともに、社会構造の変化や暮らしの変化を踏まえ、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることができる『地域共生社会』を実現することを目標としています。

地域福祉活動計画では4つの目標を掲げるとともに、その目標に到達するための具体的な行動計画として19項目の『私たちの取り組み』を設定し、その取り組みに対して地域福祉計画の取組課題を対応させています。

みんなで築く福祉のまち ～地域共生社会の実現を目指して～

<私たちの目標>

手を取り合ってお互いに支え合えるまちをつくろう

<私たちの取り組み>

- ・地区社協を中心に地域の支え合いの力を結集しよう
- ・寄付を地域福祉活動に活かそう
- ・孤立しない地域社会をつくろう
- ・安心して子どもを育てられる地域をつくろう
- ・高齢者・障がい者・子どもなどへの虐待を防ごう

<私たちの目標>

役割や生きがいを見つけいきいきと暮らせるまちをつくろう

<私たちの取り組み>

- ・町会・自治会の活動に参加しよう
- ・ボランティア活動に参加しよう
- ・就労を通して生きがいを高めよう
- ・障がいのある人も住みやすい地域をつくろう

<私たちの目標>

地域の誰もが安心して暮らせるまちをつくろう

<私たちの取り組み>

- ・誰もが安心して相談できる場を確保しよう
- ・地域での支援にボランティアの力を活かそう
- ・尊厳ある生活を守ろう
- ・生活基盤を整えて自立した生活を送ろう
- ・健康づくりを心がけよう
- ・安心・安全に暮らせる地域をつくろう
- ・災害対策に取り組もう

<私たちの目標>

次の世代につないでいける心やさしい福祉のまちをつくろう

<私たちの取り組み>

- ・心のバリアフリーを広げよう
- ・地域での交流を深めよう
- ・次代の担い手を地域で育てよう

私たちの目標

手を取り合ってお互いに支え合える まちをつくろう

地区社協を中心に地域の支え合いの力を結集しよう

地区社協では、地域の多様な団体・人々・施設が集い、さまざまな活動を行うことで、地域福祉を推進しています。地域住民からは、高齢化や定年退職後も働く人が増えたことに伴い、活動の担い手不足が深刻であるとの声があがっています。それぞれのライフスタイルに合わせ、少しずつでも地域活動に参加できる仕組みづくりが求められます。

近年は近隣住民同士のつながりが希薄化し、それに伴い地域活動への関心も薄れ、地域活動の存在自体を知らない人も増えています。地区社協を中心に地域活動の存在を広く周知し、参加するきっかけを作り出すことも必要です。

■ 一人ひとりができること

- ① 自分ができるところを見つけて、地域活動に参加しましょう。
- ② 社協の活動を理解しましょう。

■ 地域で取り組みたいこと

- ① 地域住民同士の交流の場を設けましょう。
- ② さまざまな情報の発信・共有を地域で行いましょう。



ふれあい広場
(馬橋地区社協)

■ 松戸市社会福祉協議会の取り組み

- ① 地区社協支援事業の充実：地域の実態に即した事業を展開します。
- ② 地区社協ふれあい広場の開催：地域住民の交流の場として継続して開催します。
- ③ 寄付の活用：寄付を地区社協の活動に活用します。

寄付を地域福祉活動に活かそう

社協活動の財源は、地域住民や団体・企業からの会費と共同募金、寄付金などです。しかし、総額は減少傾向にあります。今後は、新しく地域に移り住んだ人たちへ社協活動や会費の必要性を周知し、協力を得ることが必要です。

市社協では誰もが気軽に寄付できる仕組みの一つとして、地域や企業の協力の下、市内公共施設などへの自動販売機の設置に取り組み、売上の一部を地域福祉活動の財源として活用しています。また、フードバンクの窓口を常時開設し、食料を必要とする世帯に提供しています。こうした財源や資源を確保し、地域に還元することは、地域福祉の推進に不可欠です。

■ 一人ひとりができること

- ① 地域活動を応援するために、共同募金・寄付に協力しましょう。
- ② フードバンク活動に参加しましょう。

■ 地域で取り組みたいこと

- ① 社協会費に協力しましょう。
- ② 自動販売機の設置に協力しましょう。

■ 松戸市社会福祉協議会の取り組み

- ① 会費の活用：会費を適正に活用し、使途を公表することで納付への理解を促進するよう努めます。
- ② 寄付の活用：寄付金の使途の周知に努め、納入への理解が得られるようにします。
- ③ フードバンク事業の拡充：定期的に周知活動を行い、提供を呼び掛けていきます。
- ④ 使用済み切手収集：定期的に周知活動を行い、提供を呼び掛けていきます。
- ⑤ 共同募金の配分：多くの人々の理解と協力が得られるよう配分先について調査研究を継続します。
- ⑥ 収益事業の拡充：自動販売機の設置台数を増やすようさまざまな団体や企業等に協力依頼していきます。

孤立しない地域社会をつくろう

新型コロナウイルスの流行により、多くの地域イベントが中止となり、地域住民の交流の場が失われています。近隣住民との関係性についてのアンケートでは、99.1%の人が関わりを持ちたいと回答しています。このことから地域イベントの再開が待ち望まれていることが分かります。また、孤立しない地域社会をつくるためには、普段のあいさつや声かけを大切にして、近所に顔なじみを作っておくことが重要です。

生活習慣や価値観の多様化・核家族化により、人と人とのつながりが薄くなってきています。こうした社会的問題に対して、地域で行われているイベントは地域住民の交流をはかる上で重要な役割を果たしています。

■ 一人ひとりができること

- ① 地域のイベントに参加しましょう。
- ② 普段から積極的に挨拶を交わし、身近に顔なじみをつくりましょう。
- ③ 困っている人を見つけたら、必要に応じて声をかけ専門機関につなぎましょう。

■ 地域で取り組みたいこと

- ① 地域の活動に協力して、地域でのつながりをつくりましょう。
- ② さまざまな相談窓口の情報を伝えていきましょう。

■ 松戸市社会福祉協議会の取り組み

- ① 地区社協ふれあい・いきいきサロンへの支援：地区社協の地域住民のニーズに応じた事業展開を支援します。
- ② 地区社協ふれあい会食会への支援：一人暮らし高齢者の見守りを支援します。
- ③ 多世代まるごと居場所づくり事業：孤立しない地域づくりに必要な情報を発信します。
- ④ オレンジ協力員推進事業：在宅で生活をしている認知症の人が孤立しないよう、地域包括支援センターと協働して見守ります。
- ⑤ 切手整理ボランティア：年齢や障がいに関係なく、自由に参加できるボランティア活動として継続して実施します。
- ⑥ 高齢者支援連絡会：関係機関と連携して事業を展開します。
- ⑦ 福祉なんでも相談の充実：困った時に相談できる身近な窓口となるよう相談員と協働します。

安心して子どもを育てられる地域をつくろう

地域の支え合い・たすけあいに関するアンケートでは地域が協力して取り組むべき課題について「子育て中の親などへの支援」や「子どもへの支援」との回答が40歳代までの回答で割合が高くなっています。

地域では、子どもから高齢者までさまざまな世代が助け合いながら、暮らしていくことが重要です。しかしながら、急速な少子化の進展や核家族化、地域のつながりの希薄化により、子どもや家族を取り巻く環境は、目まぐるしく変化しています。子育ての孤立感や負担感を感じている人がいるなかで、子どもの健やかな育ちと子育てを地域全体で支援していく必要があります。

■ 一人ひとりができること

- ① 子育てに悩んでいる人がいたら声かけをしましょう。
- ② 子育ての経験を地域の活動に活かせるよう研修会などに参加して現状を理解しましょう。

■ 地域で取り組みたいこと

- ① 地域において親子が集える場所を充実させましょう。
- ② 地域において子どもが健やかに成長できる環境を整備しましょう。

■ 松戸市社会福祉協議会の取り組み

- ① 地区社協子育てサロンへの支援：子育てサロンへの支援を強化します。
- ② まつどファミリー・サポート・センター事業：子育て世代へまつどファミリー・サポート・センター事業を周知します。
- ③ 養育支援訪問事業：養育支援員派遣先での相談支援などを通じて子育てをサポートします。



子育てサロン
(常盤平地区社協)

高齢者・障がい者・子どもなどへの虐待を防ごう

身体的虐待・心理的虐待・経済的虐待・ネグレクト等で本人の人権を侵害された状態で生活している人がいます。地域に住む人たちが、尊厳を持って安心して暮らしていくためには、高齢者・障がい者・子どもなどへの虐待の防止と早期発見が求められています。解決に向けて地域住民と関係団体が手を取り合い支え合うことが虐待防止の大きな力になります。

住みやすいまちについて「困っている人がいたら見て見ぬふりをしない」「SOSを出せずにいる人へ手を差し伸べることができるまち」という意見が多くあがりました。虐待の防止のためには地域の見守り活動の推進や通報・相談先の周知が求められています。

■ 一人ひとりができること

- ① 虐待かどうか気にかかる場合には行政機関に相談しましょう。
- ② 虐待についての知識を深めましょう。

■ 地域で取り組みたいこと

- ① 地域での見守り活動を継続し、虐待の早期発見に努めましょう。
- ② 支援が必要な人から相談を受けた時は、相談窓口につなぎましょう。

■ 松戸市社会福祉協議会の取り組み

- ① 関係団体等各委員会への参画：虐待に関する委員会等に参画して、周知協力や関係機関との連携を図ります。
- ② 養育支援訪問事業：養育支援員派遣先での相談支援などを通じて虐待の防止に努めます。

町会・自治会の活動に参加しよう

地域のつながりが希薄化していると言われる中で、アンケートでは町会・自治会の活動に参加している人の割合は全体でおよそ半数となっています。参加している地域活動の種別としては町会・自治会の活動に参加している割合は最も多いですが、40歳代までに限るとおよそ3分の1程度に留まり、地域の活動に「参加しているものはない」割合が最も多くなっています。このことから世代ごとの地域活動への関わりの差が課題にあげられます。

地域活動へ参加しない理由として、「時間に余裕がない」が最も多く、続いて「きっかけがない」「活動の情報がない」があげられます。一方で「人付き合いが面倒」「地域の活動に関心がない」といった意見は比較的少数に留まることから、条件が合えば若い世代の町会・自治会活動への参加も見込めることが伺えます。

■ 一人ひとりができること

- ① 掲示板や回覧板で自分の住んでいる町会・自治会の情報を得ましょう。
- ② 地域のお祭りや行事に参加しましょう。

■ 地域で取り組みたいこと

- ① 町会・自治会活動に誰もが参加しやすい仕組みや機会を作りましょう。
- ② 掲示板や回覧板を活用して町会・自治会活動の情報を発信しましょう。

■ 松戸市社会福祉協議会の取り組み

- ① 地区社協支援事業：地区社協を通して町会・自治会の活性化を支援します。
- ② 社協だよりでの町会・自治会活動紹介：町会・自治会との連携強化に向け、その活動や状況を把握し、周知していきます。

ボランティア活動に参加しよう

地域活動に参加しなかった理由についてのアンケートでは、44.7%の人が「時間に余裕がない」次いで「きっかけがない」34.0%「活動の情報がない」21.3%という結果でした。時間的な余裕がないために地域活動やボランティア活動につながらないという社会的な状況が数字として表れています。

新型コロナウイルスのまん延により、福祉施設での活動が大幅に制限されています。このため、多くのボランティアが活動を休止せざるを得ない状況にあります。今後、ボランティア活動の再開に向け、どのような方策があるのか、活動環境をどう整えていくかなどを考えていく必要があります。

■ 一人ひとりができること

- ① 地域での活動に参加しましょう。
- ② 自分ができるボランティア活動を探しましょう。

■ 地域で取り組みたいこと

- ① 地域で学習会・勉強会・各種講座を開催しましょう。
- ② 行政と連携した講座の企画・運営をしましょう。

■ 松戸市社会福祉協議会の取り組み

- ① ボランティアセンター事業：ボランティア活動の拠点として活動に関する相談やコーディネートを実施し、情報発信を行います。
- ② ボランティア講座の開催：市内のボランティア活動者を増やす講座や住民ニーズに応えるための講座を実施します。
- ③ 松戸市ボランティア連絡協議会への支援：ボランティアグループの相互交流や親睦が活発になるよう団体の運営をサポートします。
- ④ 介護支援ボランティア事業：多くの方が介護支援ボランティア活動に参加できるよう周知を図ります。
- ⑤ 福祉教育サポーターの拡大：福祉教育サポーターの活動情報を周知します。



幅広く学べる
『ボランティア・カレッジ』

就労を通して生きがいを高めよう

労働力人口の減少や人手不足の傾向が続き、コロナ禍において経済的な困窮に陥った世帯の自立に向けた取り組みが求められています。また、地域でどのような分野の課題や問題があるかというアンケート項目に対して、「経済的な困窮」（14.7%）や「雇用・労働」（6.1%）があがりました。このことから生計を支えることを目的とした就労支援が必要であると考えられます。

働く機会や就労の場を持つことは、社会的な役割を実感し、生きがいのある生活を送ることにつながります。障がいの有無や年齢・性別にかかわらず、社会とつながり経済的な自立を支援する一助としての就労支援が求められています。

■ 一人ひとりができること

- ① 地域にある就労支援の相談窓口を見つけましょう。
- ② 就労につながる情報を必要な人へ伝えましょう。

■ 地域で取り組みたいこと

- ① 地域にある就労支援窓口を地域住民に周知しましょう。
- ② 障がいの有無や年齢・性別にかかわらず、地域の中で就労できる取り組みや機会をつくりましょう。

■ 松戸市社会福祉協議会の取り組み

- ① 無料職業紹介所の周知：生きがいや経済的な自立を図るために行政の就労事業等と連携しながら就労支援を行い、窓口を周知します。
- ② 生活困窮者対策事業：就労支援を通して経済的な自立や社会とのつながりをサポートします。



障がいのある人も住みやすい地域をつくらう

地域でどのような分野の課題や問題があるかというアンケート項目に対して「障がい者福祉」と回答した人の割合は、「高齢者福祉」や「防犯・防災」と比べると低くなっています。これは障がいのある人への理解がすすんでいない結果と推測されます。一方で、暮らしの中での不安や悩みが多様化している中、障がい者や認知症の人に限らず誰もが安心して暮らしやすいまちになってほしいといった意見もアンケートに複数寄せられました。

障がいのある人からは、地域の人との交流を深めたい、社会に出ていきたいというニーズがあり、地域での交流を目的としたイベントやふれあいの場が求められています。

■ 一人ひとりができること

- ① 身近な日常にある障がいや生きづらさについて考えてみましょう。
- ② 街中で困っている人がいたら声をかけてみましょう。

■ 地域で取り組みたいこと

- ① 地域にある生きづらさの原因を把握しましょう。
- ② 生きづらさを抱える人の支えとなる社会資源や取り組みの情報を発信しましょう。

■ 松戸市社会福祉協議会の取り組み

- ① 福祉教育の実施：障がいや生きづらさについて知る機会を創出します。
- ② ハートフル交流会の開催：障がいのある人と交流を図り、理解を深めます。
- ③ 地区社協ふれあい広場への支援：障がいのある人と交流を図り、理解を深めます。
- ④ オレンジ協力員推進事業：認知症の人の理解を深め、生活の質が豊かになるよう、地域で傾聴や見守りができる人を増やします。
- ⑤ 共同募金の配分：障がいのある人の理解につながる活動に募金の配分金を活用します。



小学校での福祉教育

私たちの目標

地域の誰もが安心して暮らせる まちをつくろう

誰もが安心して相談できる場を確保しよう

困った際の相談先についてのアンケートでは、「家族・親戚」「友人・ご近所」との回答が高い割合を示しています。一方で「どこに相談していいかわからない」との回答もあり、地域の中で気軽に相談できる場の情報が求められていることが分かります。

安心して暮らせるまちづくりには、住民同士が相談し合える関係づくりが大切ですが、近年は住民同士の関係の希薄化が懸念されています。悩みを抱えている人が孤立しないよう、見守りや支え合いの出来る地域づくりを目指していくことが大切です。

■ 一人ひとりができること

- ① 困った時に相談できる場所を探してみましょう。
- ② 悩みごとは一人で抱えず、周りの人に相談しましょう。

■ 地域で取り組みたいこと

- ① 悩みごとを抱えている人が孤立しないよう、地域で見守りましょう。
- ② 身近にある相談窓口についての情報を発信しましょう。

■ 松戸市社会福祉協議会の取り組み

- ① 福祉なんでも相談の開催：市民に身近な相談窓口として場所の確保や人材の育成、関係機関との連携を図ります。

地域での支援にボランティアの力を活かそう

アンケートにおいて住みやすいまちについて「子どもからお年寄りまでみんなで関わりあいながら生活できたらよい」「困ったときお互いに助け合いができたらい」との意見が複数挙げられました。地域の中に生きがい、役割を持って生活できるよう居場所や出番をつくったり、社会参加を促す生活支援・介護予防の拡充を目指すことが重要です。

地域住民が抱える課題が複雑化・複合化する中で、課題を把握し必要な支援につなげる多世代型の対応が求められています。さらに、共生の視点を持って地域の実情に応じた地域づくりも求められています。しかしながら、公的なサービスだけでは解決が難しい地域課題も多く、さまざま主体による多様なサービス・支援を充実させて、地域と共に考える生活支援体制の整備が求められています。

■ 一人ひとりができること

- ① 地域で困りごとを抱えている人がいたら、声をかけたり、耳を傾けましょう。
- ② 地域活動やボランティア活動に関心を持ち自分に役立つ情報を収集しましょう。

■ 地域で取り組みたいこと

- ① 地域住民が集まる機会に、活動の継続・充実のための情報を発信しましょう。
- ② 地域活動やボランティア活動の活発化を推進しましょう。

■ 松戸市社会福祉協議会の取り組み

- ① 日常生活自立支援事業
- ② ふれあいサービス
- ③ 訪問型生活支援・困りごとサービス
- ④ 養育支援訪問事業
- ⑤ まつどファミリー・サポート・センター事業
- ⑥ オレンジ協力員推進事業：人材育成のための研修を充実させ、認知症の人への訪問活動を円滑にすすめます。
- ⑦ 介護支援ボランティア事業：施設での活動の充実が図れるよう活動者をコーディネートします。

住民の参加と協力を得て地域の中で活躍できる人材を育成するための研修・交流の機会を設け、サービスを提供します。

尊厳ある生活を守ろう

アンケートでは「一人ひとりが違うことを認め合える社会になってほしい」や「自力で相談する一歩が踏み出せない・踏み出し方が分からない人に寄り添った支援が必要」という声があげられ、一人ひとりの個性に合わせた、丁寧な支援が求められていることがわかります。

国においては一人暮らしの高齢者や認知症高齢者が増加していく中で、成年後見制度利用促進計画を策定し、権利擁護を支援する仕組みづくりをすすめ、地域の中で一人ひとりが自分らしく安心して暮らす権利を保障できる社会を目指しています。

■ 一人ひとりができること

- ① 地域の人と挨拶を交わし、つながりをつくりましょう。
- ② 困りごとなどを相談できる窓口を見つけましょう。
- ③ 地域の情報や必要な制度を把握し、自分らしい暮らしを大切にしましょう。

■ 地域で取り組みたいこと

- ① 地域の中で困っている人に気を配り、見守りましょう。
- ② 地域の中で困りごとを抱えている人に相談窓口を伝えましょう。
- ③ 相談窓口や必要な制度の情報を発信しましょう。

■ 松戸市社会福祉協議会の取り組み

- ① 日常生活自立支援事業：判断能力が不十分なため、日常生活が困難な人の権利擁護支援ができるように、事業を周知し、関係機関と連携しながら支援を行います。

生活基盤を整えて自立した生活を送ろう

社会的孤立の増加・雇用情勢の悪化・高齢化の進行など経済的困窮が広がっています。貧困は個人の問題ではなく社会的な問題であり、個人の努力では改善が難しくなっています。また生活保護が必要な人が、支援を求めることをためらう場合もあり、相談の声が出しづらく、一歩を踏み出しづらい気持ちへの配慮や理解も必要です。

アンケートでは「社会的弱者の生活の充実、支援に重点を置いたまちづくり」、「すぐに相談できる窓口が必要」という声があがっており、コロナ禍において生活困窮に対する問題が社会的に認知され、フードバンクなど地域における支え合いの輪が広がり始めています。

■ 一人ひとりができること

- ① 貧困について関心を持ち、自分ができていることを考えましょう。
- ② 地域の相談窓口を把握しましょう。

■ 地域で取り組みたいこと

- ① 地域の中で挨拶から始めて、困った時に声をあげられる関係をつくりましょう。
- ② 地域の中で一人で悩みを抱えた方が孤立しないように見守りましょう。
- ③ 相談窓口の情報を発信しましょう。

■ 松戸市社会福祉協議会の取り組み

- ① 貸付事業：貸付事業についての情報を発信し、相談の解決に向け関係機関と連携しながら、自立に向けた支援を行います。
- ② 生活困窮者対策事業：相談窓口を周知すると共に、生活に困っている人を必要な制度や事業につなぎ、自立に向け、関係機関と包括的な支援をします。
- ③ 法外援護事業：不測の事態により、緊急に援護を必要とする世帯の自立を図るため利用をすすめます。
- ④ フードバンクの拡充：生活に困っている人に、緊急的な支援として食品の提供を行います。



食品の寄付を呼びかけ、必要な人に提供しています

健康づくりを心がけよう

国・県・市の健康増進計画では、元気で豊かな老後を送れる健康寿命の延伸に向けた取り組みが提唱されています。アンケート調査においても39.2%の人が、現在住んでいる地域で「健康づくり・健康維持への支援を地域で協力し合って取り組む必要がある」と回答しています。町会自治会主催のラジオ体操や、地域包括支援センターによる体操教室などさまざまな団体による活動があり、身近な場所で取り組みがすすめられています。

ボランティア活動も健康維持の一助となっていました。新型コロナウイルスの影響で多くの福祉施設でボランティアの受け入れを休止しており、活動の場が制限されています。ボランティア活動できないことが、外出機会の減少・体力の低下につながっていると考えられます。

■ 一人ひとりができること

- ① 自分の健康は自分で管理する意識を持ちましょう。
- ② バランスのとれた食事・適度な運動など望ましい生活習慣を心がけましょう。

■ 地域で取り組みたいこと

- ① 医療機関と連携した医療・健康講座等を開催しましょう。
- ② 健康体操やラジオ体操、グラウンド・ゴルフなどを地域で実施しましょう。

■ 松戸市社会福祉協議会の取り組み

- ① 地区社協グラウンド・ゴルフへの支援：軽スポーツを通じて健康づくりをすすめます。まつど健康マイレージ事業に協力します。
- ② 介護支援ボランティア事業：登録者、さらに活動者を増やすことで、介護支援ボランティア活動による健康維持を目指します。

安心・安全に暮らせる地域をつくろう

「地域で協力して取り組むべきこと」のアンケートより「防犯・防災」が高い割合を示しており、多くの人にとって地域における共通の課題だと認識していることがわかります。これは昨今ニュースで目にする子どもへの犯罪や特殊詐欺、地震・台風などを自分事としてとらえているためだと考えられます。

「自身が協力できること」のアンケートより「近隣との連携（あいさつ・見守り活動・防犯活動・安否確認など）」はどの年代でも高い割合を示しています。気軽に参加できる地域連携の仕組みを創出することで、地域の防犯力・連携力が高められると考えられます。

■ 一人ひとりができること

- ① 地域の人とあいさつを交わしましょう。
- ② 災害への備えをしましょう。

■ 地域で取り組みたいこと

- ① 防犯・防災パトロールなどの活動を行いましょう。
- ② 災害時の動きを話し合い、訓練を行いましょう。

■ 松戸市社会福祉協議会の取り組み

- ① ホームページでの防犯呼び掛け：防犯活動について、情報の周知などを継続します。

災害対策に取り組もう

震災の経験や豪雨災害の増加から、地域住民の防災意識は年々高まっています。あなたの考える「誰もが住みやすいまち」のアンケートに対して、「災害時に近隣住民と助け合えるまち」「防災や防犯対策がしっかりしているまち」といった回答が多く寄せられました。しかしその一方で、「自治会で1度も防災訓練が行われたことがない」「災害時の市や地域の対応をもっと細かく確認しておきたい」といった声も寄せられ、現状の災害対策では不十分であることが伺えます。

また近年は共働き世帯の増加や個人主義の傾向が強まることによって、地域住民同士のつながりが希薄化しています。日頃から近隣住民とあいさつを交わし、有事の際はお互いに助け合える関係性を築くとともに、障がいのある人など特に助けが必要な人を把握し、防災訓練も定期的に行うことによって、地域全体で災害に備えていく必要があります。

■ 一人ひとりができること

- ① 非常時の連絡手段や避難所・避難経路の把握、災害用品の備蓄をしましょう。
- ② 日頃から近所の人とあいさつを交わし、関係性を築きましょう。

■ 地域で取り組みたいこと

- ① 地域での防災訓練や避難訓練を定期的に行いましょう。
- ② 災害時に地域で支援が必要な人を把握しましょう。

■ 松戸市社会福祉協議会の取り組み

- ① 災害ボランティアセンター運営訓練：松戸市や災害支援団体と連携をとり、地域住民に参加を呼びかけ、松戸市、災害支援団体、地域住民と連携し訓練を実施します。

心のバリアフリーを広げよう

バリアとは、①移動を困難にする段差のような「物理的なバリア」、②社会のルールや制度によってさまざまな機会が奪われる「制度的なバリア」、③必要な情報がきちんと得られない「文化・情報面でのバリア」、④周囲の理解不足による心無い言葉や無関心である「意識上のバリア」の4つがあります。誰もが安心して地域で生活していくためには、これらのバリアを解消していくことが必要です。

アンケートでも「高齢者、障がい者、ベビーカーの子どもなど、みんなが安全に移動できるまちにしたい」「障がいがある人や外国の人とも交流をしたい」といったバリアフリーを望む意見が複数ありました。「共生社会」を実現していくためには、全ての人がお互いの価値を認め、支え合っていく心のバリアフリーを推進していくことが必要です。

■ 一人ひとりができること

- ① 困っている人がいたら積極的に声をかけていきましょう。
- ② どのような人に対しても優しく接していきましょう。

■ 地域で取り組みたいこと

- ① 参加の対象を限定しないイベントを開催しましょう。
- ② 障がいがある人でも理解しやすい情報発信をしましょう。

■ 松戸市社会福祉協議会の取り組み

- ① 福祉教育の実施：福祉体験学習や多様な人との交流を通じて、他者を理解し、支え合う「福祉の心」を育てます。

地域での交流を深めよう

新型コロナウイルス感染症の影響により、毎年行われていた地域でのさまざまな交流イベントが中止になりました。以前より問題となっていた「社会的孤立」は、こうしたコロナ禍の影響で人との交流が制限されたことにより、さらに拍車がかかっています。

オンラインでの交流イベントなども散見されるようになりましたが、利用が困難な人も多く、参集型の交流イベントは依然として必要であると考えられます。

アンケートの結果を見ると、コロナ禍であっても地域での交流は必要であるという意見があり、感染症対策を万全にした上で地区社協事業を推進していくことが必要です。

■ 一人ひとりができること

- ① 日頃から近隣の人たちと挨拶を交わしましょう。
- ② 広報紙などから情報を得て交流イベントに参加してみましょう。

■ 地域で取り組みたいこと

- ① 感染症の対策を万全にして交流イベントを開催しましょう。
- ② 誰もが気軽に交流できるイベントを実施しましょう。

- 松戸市社会福祉協議会の取り組み
- ① 地区社協ふれあい広場への支援：
誰もが参加できるイベントの開催を支援します。
- ② 多世代まるごと居場所づくり事業：
地域のさまざまな人が集える居場所づくりを支援します。
- ③ 地域福祉フォーラム交流会の開催：
市内の福祉団体・社会福祉法人などが交流する機会を設け、相互の連携と協働意識の醸成を図ります。



地域の学校が演奏するふれあい音楽祭
(本庁地区社協)

次代の担い手を地域で育てよう

地域活動に参加していない人の割合はアンケート回答者全体で見ると12.6%ですが、40歳代までに限ると38.0%と約3倍の結果となりました。この結果からも地域活動に携わる方の高齢化が進んでいることが分かり、次代の担い手不足が課題となっていることが分かります。

若い世代に福祉への関心を持ってもらうためには、福祉の重要性や必要性を理解してもらい、自分も地域活動に参加したいと思ってもらうことが大切です。福祉教育や地域活動を通して、地域全体で次代の担い手を育てていく必要性があります。

■ 一人ひとりができること

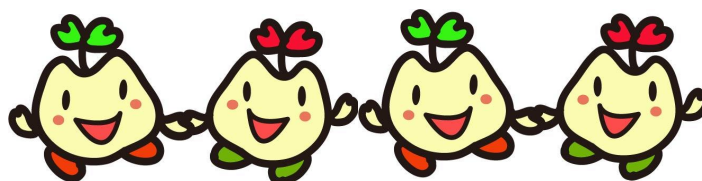
- ① 地域活動に参加しましょう。
- ② 地域の課題に目を向けましょう。

■ 地域で取り組みたいこと

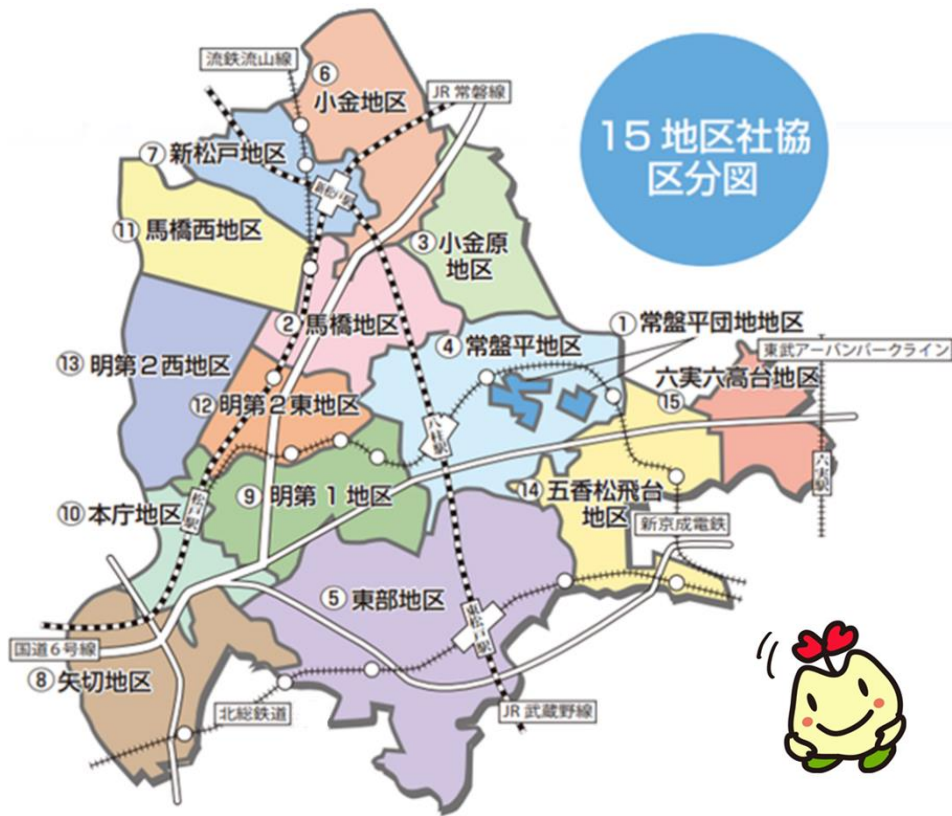
- ① 次代の担い手を地域で育てていく意識を持ちましょう。
- ② 地域での学習会、勉強会、各種講座を開催しましょう。

■ 松戸市社会福祉協議会の取り組み

- ① 福祉教育実施のための支援：福祉教育活動プログラムの提案、助成金交付などの支援を行います。
- ② 福祉用具の貸出：福祉体験用具を貸し出します。
- ③ 子どもボランティア体験講座の開催：ボランティア活動を体験してもらうことでボランティア活動者増加に繋がります。
- ④ 福祉教育サポーターの育成：福祉教育サポーターの募集、育成を行います。



地区社会福祉協議会の活動計画



地区社協名（設立順）	事務局所在地
① 常盤平団地	常盤平3-30 常盤平市民センター内
② 馬橋	馬橋1854-3 馬橋東市民センター内
③ 小金原	小金原6-6-2 小金原市民センター内
④ 常盤平	常盤平3-30 常盤平市民センター内
⑤ 東部	高塚新田494-9 東部市民センター内
⑥ 小金	小金きよしヶ丘3-1-1 小金市民センター内
⑦ 新松戸	新松戸3-27 新松戸市民センター内
⑧ 矢切	上矢切299-1 松戸市総合福祉会館内
⑨ 明第1	上本郷3018-1 明市民センター内
⑩ 本庁	松戸1307-1 松戸ビル4F 松戸市文化ホール内
⑪ 馬橋西	西馬橋蔵元町177 馬橋市民センター内
⑫ 明第2東	南花島4-63-5
⑬ 明第2西	古ヶ崎4-3490 古ヶ崎市民センター内
⑭ 五香松飛台	五香2-35-5 五香市民センター内
⑮ 六実六高台	六高台3-70-1 六実市民センター別館内

地区社協名	主な地域
常盤平団地地区 社会福祉協議会	常盤平団地（1・2・3・E地区、中央、駅前、駅上、セントラルハイツ、けやき通り）
馬橋地区 社会福祉協議会	馬橋（JR東側）、中根、中根長津町、新作、三ヶ月、幸谷、中和倉、八ヶ崎2～8丁目、八ヶ崎緑町
小金原地区 社会福祉協議会	小金原、栗ヶ沢、八ヶ崎1丁目、根木内（国道6号線東側）、小金の一部
常盤平地区 社会福祉協議会	常盤平、金ヶ作、日暮、千駄堀、牧の原、常盤平西窪町、常盤平双葉町、常盤平柳町、常盤平陣屋前、常盤平松葉町
東部地区 社会福祉協議会	二十世紀が丘中松町・丸山町・戸山町・梨元町、紙敷、和名ヶ谷、秋山、高塚新田、河原塚、田中新田、大橋、東松戸、二十世紀が丘美野里町の一部
小金地区 社会福祉協議会	小金、上総内、小金清志町、小金きよしヶ丘、小金上総町、二ツ木、大谷口、平賀、殿平賀、東平賀、久保平賀、二ツ木二葉町、中金杉、幸田、大金平、根木内城山（国道6号線西側）
新松戸地区 社会福祉協議会	新松戸、新松戸北、横須賀、新松戸東
矢切地区 社会福祉協議会	上矢切、中矢切、下矢切、栗山、三矢小台、二十世紀が丘柿の木町、二十世紀が丘萩町、大橋・松戸の一部
明第1地区 社会福祉協議会	松戸新田、仲井町、稔台、岩瀬、胡録台、根本、小根本、緑ヶ丘、野菊野、吉井町の一部
本庁地区 社会福祉協議会	松戸、小山、本町、二十世紀が丘美野里町
馬橋西地区 社会福祉協議会	馬橋（JR線西側）、西馬橋、西馬橋蔵元町、西馬橋相川町、西馬橋幸町、西馬橋広手町、七右衛門新田、主水新田、旭町、新松戸南、小金の一部
明第2東地区 社会福祉協議会	上本郷、北松戸、南花島、竹ヶ花、竹ヶ花西町、吉井町の一部
明第2西地区 社会福祉協議会	樋野口、古ヶ崎、栄町、栄町西
五香松飛台地区 社会福祉協議会	五香、五香六実、松飛台、串崎新田、串崎南町、五香南、五香西
六実六高台地区 社会福祉協議会	六実、六高台、高柳、高柳新田

常盤平団地地区社会福祉協議会

重点項目

悩みを抱えた人が孤立しないよう地域全体で見守りが行える体制・事業の推進に取り組みます

地域のさまざまな人が交流できる居場所を各地区社協事業により提供することで、近隣住民同士につながりが生まれ、互いに支え合っている地域づくりを目指します。同時に、一緒に活動してくれる仲間も探していきます。

また、住み慣れた地域で元気に自立した日常生活を長く送るための支援、見守り活動にも力を入れていきたいです。



いきいきサロン

[魅力]

- 地区社協・自治会・民児協・包括・高支連が連携して事業を推進しています。
- 気軽にお茶が飲める居場所づくりとして、いきいきサロンを年間300日開設します。

[課題]

- 高齢化率が50%を超えています。（市内平均は約26%）
- 地域活動者の担い手が不足しています。

馬橋地区社会福祉協議会

重点項目

多世代の地域住民の交流の場を設け、近隣のつながりを強固にし、安心して暮らせる地域づくりをします

高齢者部のふれあい会食会をはじめ、ボランティア部、子育て支援部、広報部、各部の事業の円滑な推進を図ります。

また防災講演会や被災地見学会などを継続的に行い、意識の向上を図ることにより災害時に強い地域づくりをしていきます。



ボランティア交流会

[魅力]

- ショッピングモール「テラスモール松戸」、国の重要文化財「万満寺金剛力士像」、八ヶ崎さくら通りなど、見所がたくさんあります。
- コミュニティバス「ゆめいろバス」が、松戸市総合医療センターを起終点に馬橋駅や北松戸駅を巡回しています。

[課題]

- 馬橋駅東口ターミナルの拡張やバスの乗り入れ、周辺道路の拡幅が求められます。
- 起伏が多い地形であり、高齢者の移動手段の確保のため、コミュニティバスの運行経路の拡大が求められます。

小金原地区社会福祉協議会

重点項目

ふれあい会食会事業による、高齢者の見守りとフレイル予防活動を推進します

地域の高齢化が進む中、独居高齢者が地域で安心して生活できるよう、ふれあい会食会事業で高齢者の見守りと、外出機会を増やすことによりフレイル予防を推し進めます。

また、地区会と協力したグリーンスローモビリティの活用により、従来では目的地まで行くことのできなかつた住民も、ふれあい会食会など地区社協事業に参加できるようにすることで、孤立のない地域づくりを推進していきます。



ふれあい会食会

[魅力]

- 地区会との連携も強く、地域活動の活性化を推進しています。
- 町会活動に積極的に関わることで地域交流を図っています。

[課題]

- 担い手の高齢化が進行しています。
- 交通手段に困っている住民へのアプローチをします。
- コロナ禍を発端とした活動の制限と開催方法の模索をします。

常盤平地区社会福祉協議会

重点項目

さまざまな情報の発信・共有を行い、地域住民同士の交流の場を提供します

これからの地域を担う若い世代の人たちに自分たちが暮らす地域に興味関心を示してもらうことで、高齢者と若齢者の双方が理解を深め合い、地域の発展が図られることにつながります。

若い世代の人たちにも届くような多角的な広報活動を目指すと同時に、これまで同様に世代間交流の場を提供し続けることが地区社協の役割だと考えます。社会情勢の変化が著しい近年ですが、地域の声に耳を傾け、前向きに取り組んでいきます。



さわやか広場ときわ平

[魅力]

- 松戸市のほぼ中央に位置し、周辺より標高が高いことから水害が少なく、また武蔵野線、新京成線の2路線が通っており住みやすいまちです。
- 21世紀の森と広場をはじめ、金ケ作自然公園、さくら通り、けやき通りなど緑が多いです。
- 市立博物館、森のホールが徒歩圏内にあり利用しやすいです。

[課題]

- 地区社協事業の多くはボランティアに支えられていますが、コロナ禍の事業休止期間の影響が出ており、交流会や講習会などを通して意見を交わし合うことで、地域福祉の推進をしていく必要があります。
- これからは地区社協活動においてもSNSの活用が求められていますが、環境整備が追い付いていません。

東部地区社会福祉協議会

重点項目

地域での交流を深めるために誰もが気軽に参加できるイベント開催に取り組みます

東部地区では近年人口流入が著しく進み、高齢者人口ばかりでなく、14歳以下の若年者人口も大きく増加しています。各世代からのニーズも多様化、複雑化している中、全世代、多くの皆様にご満足いただける活動が必要になっています。

これまで行ってきた「会食支援」「家事支援」「子育て支援」「健康増進支援」などの充実に加え、「全世代の誰もが参加でき、楽しめる新たな支援活動」を目指し、活動内容のより一層の向上に取り組んで参ります。



子育てサロン

[魅力]

○人口増加により活気に満ちあふれたまちです。
○各町会・自治会での移動ふれあい会食会などを実施しています。

[課題]

○地域活動者の担い手が不足しています。
○各世代の人口増加に伴う福祉ニーズが多様化しています。

小金地区社会福祉協議会

重点項目

結婚50年祝賀事業をはじめ、地域住民が孤立しないよう地域とのつながりを深めていきます

『結婚50年祝賀事業』は毎年結婚50年を迎えられたご夫婦に敬意を表し祝賀会を開催する事業です。新型コロナウイルス感染症対策により飲食を伴った祝賀会は控えていますが、参加者に楽しんでもらえるように魅力的な催しを企画し、祝賀会に華を添えています。

今後の5年間もお祝いの気持ちを持ちながら参加者に満足してもらえよう趣向を凝らした祝賀会を行い、地域のつながりを深めていきます。



結婚50年祝賀会

[魅力]

○南北にわたって広い地域ですが、多くのボランティアの人たちをはじめ、町会、民児協などが協力し事業を進めています。

[課題]

○年々ボランティアが高齢化しているため、若い世代にも継続的に参加してもらおう方法を模索しています。

新松戸地区社会福祉協議会

重点項目

地域活動やボランティア活動の活性化を推進し、地域で相互に支え合えるまちづくりを目指します

私たちの目指す地域の支え合いは、一方通行のものではありません。相互に交流するなかで、支えている人が支えられている人から得られるものも沢山あります。「支えられる人も、支える側に」をコンセプトに、まちづくりを推進します。

また、そのためにはボランティアの参加が不可欠です。令和4年度からの新規事業である「SDGs子どもクッキング」では、子どもたちにSDGsを盛り込んだ食育を学んでもらうとともに、未来のボランティアの育成にもつなげていきます。



SDGs子どもクッキング

[魅力]

○JR武蔵野線とJR常磐線（地下鉄千代田線）の乗換駅で、交通の便に恵まれ、地域内には主要な都市銀行の支店、郵便局、スーパーマーケットなどもあり、生活しやすいまちです。

○1980年代前後に開発された地域で、移り住んできた人たちは、ここを子どもたちの新しい故郷にしようと地元の人たちと力を合わせ、新松戸まつりなどを作り上げてきました。

[課題]

○生活に便利なまちであるために、子育てを終えた親世代がそのまま住み続け、結果として高齢者の多い地域となっています。

○これまで地域活動に関わってきた人たちも高齢化によりリタイアが増え、世代交代が急務となっています。

○最近ではアジア系の若い住民が増えており、同じ地域の住民として交流を図っていく必要があります。

矢切地区社会福祉協議会

重点項目

地域住民同士の交流の場としてふれあい広場
～矢切こどもまつり～の開催・充実化に取り組みます

矢切地区社会福祉協議会では、毎年秋頃に「みんな子ども心で、三世代交流のふれあい」を合い言葉に、地元の子ども会、福祉関連団体、学校、サークルなどに協力してもらい、ふれあい広場～矢切こどもまつり～を開催しています。今後もこのイベントが地域住民同士の交流の場となり、地域が支え合う力となっていくよう内容の充実化により一層取り組んでいきます。



矢切地区ふれあい広場～矢切こどもまつり～

[魅力]

○さまざまな境遇の人に寄り添った事業を展開しています。
○防災部による救急医療安心キットの普及促進活動をすすめます。

[課題]

○地域活動者の高齢化・担い手不足が生じています。
○事業参加者数が減少傾向です。

明第1地区社会福祉協議会

重点項目

ふれあい会食会をはじめとして楽しさを感じてもらえる事業を行い、地域の絆を深めていきます

『ふれあい会食会』は70歳以上の一人暮らしの高齢者を対象に、地区内2か所を会場に年8回開催しています。

コロナウイルス感染症の影響により会食会を中止せざるを得ない状況が続きましたが、令和4年度8月から、感染対策に留意しながら以前と同じ会食会になるように進めています。

今後も、美味しくバランスの良い食事を提供するとともに、楽しい交流の場としての役割を担って行くよう努めます。



ふれあい会食会

[魅力]

○広い地域ですが、各町会・自治会がつながりを強めるように意識を高く持っています。

[課題]

○これからの時代を見据えて、時代に合わせた新しい形の事業を模索しています。

本庁地区社会福祉協議会

重点項目

広報紙と併せてSNS等の電子媒体を積極的に発信することで地域をつなげていきます

世代を問わず地区社会福祉協議会を知ってもらうため、既存の広報紙「ほんちょう」「事務局だより」による広報活動と併せて、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などを用いて、若い世代やマンション世帯、物理的に隔たりのある地域など既存の方法では接点を持つことが難しかったエリアに対しても事業の案内や報告を発信します。より多くの人たちが地区社会福祉協議会の催し物を知り、参加者と担い手の両面で地域と関わる機会を創出します。



みんなで歩くウォーキングフェスタ

[魅力]

○地区会や地域の学校と協働したイベントの開催を推進しています。
○松戸駅から事務所が近いことで車いすの利用が便利です。

[課題]

○マンション世帯を地域と結び付けることが難しいです。
○鉄道や幹線道路による物理的な地域の隔たりがあります。
○ボランティアが高齢化しています。
○若い世代からの認知度が低いです。

馬橋西地区社会福祉協議会

重点項目

ふれあい広場をはじめとする、参加者の対象を制限せず
住民に開かれた催し物の開催で地域を盛り上げます

「ふれあい広場と大根掘り」「グラウンド・ゴルフ大会」「味噌づくり教室」「こども雛祭り」「カローリング大会」など、さまざまなイベントを企画しています。新型コロナウイルス感染症への対策を講じ、誰もが気軽に安心して交流できるイベントを行うことで、地域の交流を推進していきます。

また、近隣の学校と協力することで、子どもとその親も含めた若い世代が地域へ参入するきっかけを創ります。



ふれあい広場で大根掘り体験

[魅力]

- 近隣に小・中学校、高校がある強みを生かした子ども参加型の地域活動を推進しています。
- 地区内の全ての町会・自治会が地区社協の活動に積極的に参加しています。

[課題]

- コロナ禍を発端とした活動の制限とこれからの開催方法のあり方を模索しています。
- ボランティアの高齢化が進んでいます。

明第2東地区社会福祉協議会

重点項目

市民運動会を開催し、3世代が交流できる場を作ります

「明第2東地区市民運動会」は新型コロナウイルス感染症の影響により、令和4年度に3年ぶりに開催されました。運動会の運営には、地区内12町会の関係者のほか、松戸第六中学校の生徒さんたちも参画してくれて運動会を盛り上げてくれています。地域の子どもたちと一緒に競技に参加できるのが楽しいという声も聞かれ、3世代交流の場となっています。

今後、地域住民の交流の場として、みんなが参加したくなる運動会を行うように努めます。



子どもたちによる玉入れ

[魅力]

- 地域の関係団体と連携が取れているため、事業が円滑に進んでいます。

[課題]

- さまざまな事業を行っているが、高齢化に伴い担い手が不足しているため新しい担い手の発掘が必要です。

明第2西地区社会福祉協議会

重点項目

地域の誰もがボランティア活動に取り組みやすい環境を整えます

より活気ある地域づくりに向けて、住民ボランティアが不安なく活動できるよう、関係する諸団体をはじめさまざまな外部組織との連絡調整を行う部会の立ち上げや、地区社会福祉協議会内の連携強化を図ります。固定観念にとらわれない時代に即した体制整備をすることで、新規にボランティア活動がしたい人も参入しやすい風土づくりを目指します。

少子高齢化の傾向は今後も予想され、既にさまざまな地域ボランティアの選出が難しい状況からも、地区社協活動を継続するために次世代のボランティア育成を推進していきます。



子育てサロン

[魅力]

- 社協事業や町会独自のサロン活動があります。
- 子どもと保護者が集う「いるかひろば」の運営をします。
- 「健康ひろば」でいい汗をかく集いを定期開催します。
- 会食・配食事業で、地域の高齢者とのつながりを継続します。

[課題]

- 地域の誰もがボランティア活動に取り組みやすい環境の整備が必要です。
- 次世代の担い手となるボランティアの育成が急務です。
- 高齢者世帯が増加しています。

五香松飛台地区社会福祉協議会

重点項目

誰もが気軽に参加できる交流の場を提供し、近隣住民同士で支え合っていける地域づくりを目指します

地域のさまざまな人が交流できる居場所を各地区社協事業により提供することで、近隣住民同士につながりが生まれ、互いに支え合っていける地域づくりを目指します。同時に、一緒に活動してくれる仲間も探していきます。

また、住み慣れた地域で元気に自立した日常生活を長く送るための支援、見守り活動にも力を入れていきたいです。



ふれあい会食会 茶話会

[魅力]

- 五香と松飛台の2つの地域で1つの地区社協になっていて、五香と松飛台の市民センター2か所に分けて事業活動ができます。
- 離れた地区同士が一緒に長年、協力して交流してきたつながりから、みんなで1つになって福祉のために助け合える気持ちの強さを感じます。

[課題]

- 活動の担い手が高齢化しており、若い人材の加入が望まれます。
- 任期が短い町会、自治会が多く、若い人材が加入してもすぐに交代してしまうことも多いです。

六実六高台地区社会福祉協議会

重点項目

地域支援にボランティアの力を活かすために
ボランティア人材の発掘・育成に取り組みます

六実六高台地区社協では企画部、広報部、会食部、子育て支援部、シニアサロン部、福祉教育、おもちゃの病院などの活動をとおして地域福祉の推進に取り組んでいます。これらの活動を継続的に充実、発展させていくためには担い手としてのボランティア人材の切れ目のない世代交代が必要となってくるため、積極的にボランティア人材の発掘をすすめるとともに育成体制の構築にも取り組んでいきます。



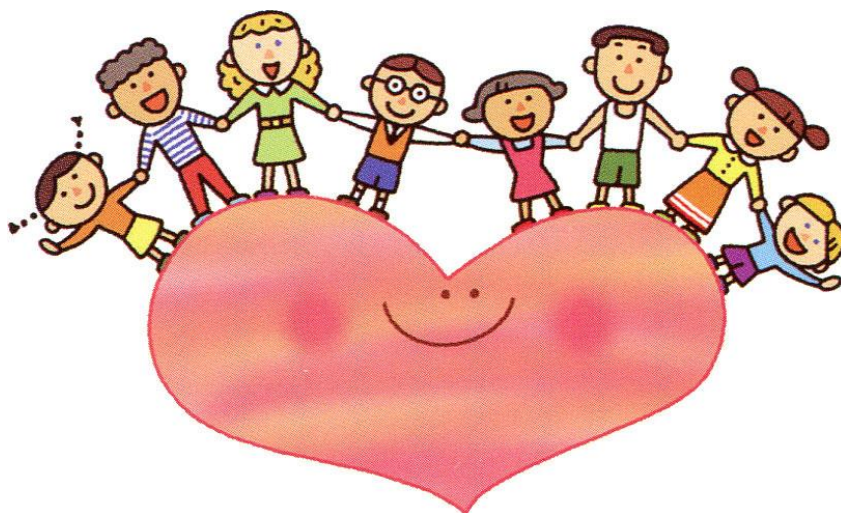
夏休み工作教室

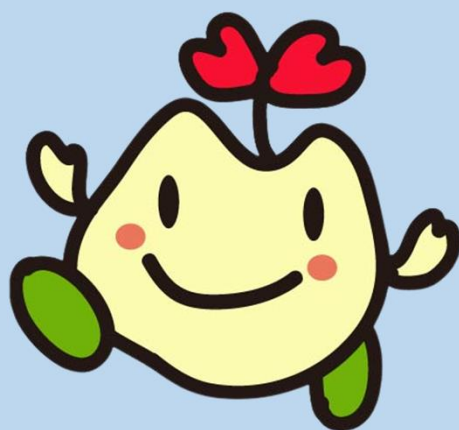
[魅力]

- スポーツ広場・公園などが充実しており、住宅地には緑が多いです。
- 桜が咲くころのグリーンベルトは桜の名所となっています。

[課題]

- 地域活動者の担い手が不足しています。
- 若い世代の地区社協の認知度が低いです。





マスコットキャラクター「まっころん」



社会福祉
法人

松戸市社会福祉協議会

〒271-0094 松戸市上矢切299-1(松戸市総合福祉会館内)
☎ 047(368)0503(代表) FAX 047(368)0203(共通)
〔URL〕 <http://www.matsudo-shakyo.com/>
〔E-mail〕 kanri@matsudo-shakyo.com

●管理課

☎ 047(368)0928

●地域福祉推進課

☎ 047(710)2341

●生活相談課

☎ 047(368)0912

・貸付事業

☎ 047(368)0912

・日常生活自立支援事業

☎ 047(368)0349

〒271-8588 松戸市根本387-5

(松戸市役所内)

・松戸市自立相談支援センター

☎ 047(366)0077

FAX 047(366)0550

・無料職業紹介所

☎/FAX 047(365)4712

●ボランティア推進課

・ボランティアセンター

・介護支援ボランティア事業

・オレンジ協力員推進事業

☎ 047(362)5963

FAX 047(368)0536

・ふれあいサービス事業

☎ 047(368)2941

FAX 047(368)2977

・訪問型生活支援・困りごとサービス

☎ 047(712)0311

・養育支援訪問事業

☎ 047(710)6686

〒271-0091 松戸市本町14-10

(松戸市男女共同参画センターゆうまつど内)

・まつどファミリー・サポート・

センター

☎ 047(330)2941

FAX 047(360)0581

